

にじゅうまるプロジェクトの 歩みと、ポスト愛知への示唆

国際自然保護連合日本委員会
副会長・事務局長
(日本自然保護協会)
道家哲平

国際自然保護連合日本委員会

- 国際自然保護連合 (IUCN) の日本関係団体・専門家からなる連携組織。事務局日本自然保護協会
- COP10の誘致、市民ネットの支援、UNDB実現の政策提言。COP10後は、COP10の成果実現のためのフォローアップを強化
- 国立環境研究所と愛知ターゲット達成のための協定締結

ポスト2020の目標の中身ではなく、 実施体制が中心

- ポスト2020 COP決定とIUCNの議論
- にじゅうまるプロジェクトとは
- ポスト2020への示唆

ポスト2020の目標の中身ではなく、
実施体制(ガバナンス)が中心



にじゅうまるプロジェクト



にじゅうまる宣言をする

- 今、世界で注目される生物多様性とは
- にじゅうまるNEWS



にじゅうまる活動を調べる

- 生物多様性を守る愛知ターゲットとは
- にじゅうまる国際会議レポート

お問い合わせ サイトマップ

- 愛知ターゲットを達成するためのにじゅうまるプロジェクト
- 運営団体

にじゅうまるプロジェクトのゴールまで、あと **05** 年 **02** 月 **18** 日

登録団体数 **242** 登録事業数 **329**

2015年10月14日 現在

平成27年度 **日本自然保護大賞**

賞状は、自然保護と生物多様性保全に貢献した、子どもから大人まですべての個人と団体、企業、自治体の中から選ばれました。

応募締切日 2015年9月30日

- 環境省賞状部門
- 農林水産省賞状部門
- 国土交通省賞状部門
- 国土交通省賞状部門
- 国土交通省賞状部門
- 国土交通省賞状部門

にじゅうまるプロジェクト 公式Facebookページ

生物多様性保全の新たな潮流 長良川保護地

おりがみアクション Let's Origami Action

田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト

新着情報

にじゅうまるNEWS・国際会議レポート

目標5は森林、森林資源は回復困難、その他の森林減少は止まらない。(GBO4レポート)

今日はGBO4が報告する、愛知ターゲットの目標5に関する現状とその対策をお知らせ、まず目標5で目録しているものは、下に紹介します。A、B、Cのポイントに分かれます。 20...

福留に取組をさせたい、持続可能な消費と生産法を話し、302

る? GBO4が伝える中間報告

GBO-4は3本が「生物多様性保護高+減」という思いの強さを、気候の生物多様性の専門家が、世界中の議員、研究者とよに世界の中心(以下BO)に繋がる現状を話し、またベストプラ...

生物多様性に関する様々な情報

みずのがっこう 海と川と海をつなぐ海地保護ツアー 20

9月27日(日)にみずのがっこう海地(森と川と海をつなぐ海地保護ツアー)を行いました。二重半島の地味に位置する小規模の海地、漁業から海地、海地からの海地をまよながら、地味や海地、生きものについて...

Will climate change lead to food chains collapse in the ocean? 20

ADELAIDE, Australia, Oct. 12 (UPI) -- A domino effect of collapsing food chains could be ahead...

Study: Melting of Antarctica's ice shelves to intensify 201...

にじゅうまる宣言をする

にじゅうまる活動を調べる

お問

注目される生物多様性を守る

愛知ターゲットとは

にじゅうまる

にじゅうまる国際会議レポート

運営団体

- 今、世界で注目される生物多様性とは
- 生物多様性を守る愛知ターゲットとは
- 愛知ターゲットを達成するための
- 生物多様性の主流化に向けた



bd20.jp
をご覧ください

基本認識

- 愛知ターゲットは、持続可能な開発目標(SDGs)達成のための基盤
- 2050年「人と自然の共生する社会」がめざすビジョン
- 生物多様性の劣化は、今なお、世界のほぼ全地域で進行中(IPBES)
- 生物多様性保全(愛知ターゲット)達成のための行動は数多く生まれているが、劣化を止めるに至っていない。
- 劣化を止めるには、変革的変化(transformative change)が必要
- COP14の交渉では、検討プロセスを決定

- 特別作業部会の設置と共同議長指名
- プロセスそのものの普及啓発のためのハイレベルパネルの設置
- 多様な関係者(*)を対象にしたり、参画したりする準備プロセスや、地域ワークショップの開催等を通じて検討を進めることを呼びかけ
- 2020年の国連総会で首脳級会合を実施

(COP14/34 下線は、COP10ではなかったプロセス)

【スケジュール案】

- COP14後、締約国等に対する意見照会や地域協議ワークショップ(各地域2回)等を実施・特別作業部会を最低2回開催などを検討していたが一旦白紙。共同議長の下で再検討
- ⇒ 2018年12月: ポスト2020の枠組みや範囲への意見照会
- ⇒ 2019年6月: ディスカッションペーパーの公表、意見照会
- ⇒ 2020年1月: 目標素案を公表→ピアレビュー(2回)
- ⇒ 2020年10月: COP15における検討

付属書：ポスト2020生物多様性地球枠組みの準備プロセス

PREPARATORY PROCESS FOR THE POST-2020 GLOBAL BIODIVERSITY FRAMEWORK (COP14/34)

- プロセスの基本原則：基本原則の確認
- 準備プロセスの構造：会議体や他の会合との関係
- 協議プロセス：重層的で、ボランタリーなものも関係する協議プロセス
- 検討文書：ポスト2020の構造や範囲、SMARTな指標、多岐にわたる要素を検討
- 主要な情報源：国別報告書、生物多様性国家戦略、GBO5、IPBESのビジョン2050のシナリオ
- コミュニケーション・アウトリーチ：戦略（COP14別決定）の活用とハイレベルパネルの設置

多様な関係者って？

- 先住民地域共同体、国連機関、国連プログラム、他の多国間環境協定、準政府・地方自治体、政府間機関、NGO、女性グループ、ユース、ビジネスと金融コミュニティー、学術研究機関、宗教団体 (Faith based organization)、生物多様性に関係したり依存するセクターの代表、多くの市民、他のステークホルダー (COP14/34 パラ6)

検討プロセスで大事にする 諸原則も更新して採択

(COP14/34)

重要原則:

- 「参加participatory」
 - 「包摂inclusive」
 - 「包括comprehensive」
 - 「変革transformative」
 - 「触発(catalytic)」
 - 「知識ベースknowledge base」
 - 「透明性transparent」
 - 「反復性iterative(何度も意見を往復。合意と当事者意識)」
 - 「ジェンダー配慮Gender Responsive」
 - 「視認性Visible」
 - 「柔軟性Flexibility」
- 下線はCOPで新たに追加された原則



パリ協定のような仕組みの導入検討

- 締約国、その他の国に対して、単独または共同で、自発ベースで、生物多様性条約、愛知ターゲットそして、ポスト2020枠組みに貢献する、生物多様性コミットメント (Biodiversity Commitment) の開発を考慮することを求める決定。(COP14/34 パラ11)
- 先住民地域共同体、あらゆる団体、利害関係者に対して、COP15の前に、ポスト2020枠組みに貢献し、かつ、Sharm El-Sheikh to Beijing Action Agenda for Nature and Peopleへの貢献として、生物多様性コミットメントの開発を考慮するようを求める決定。(COP14/34 パラ12)

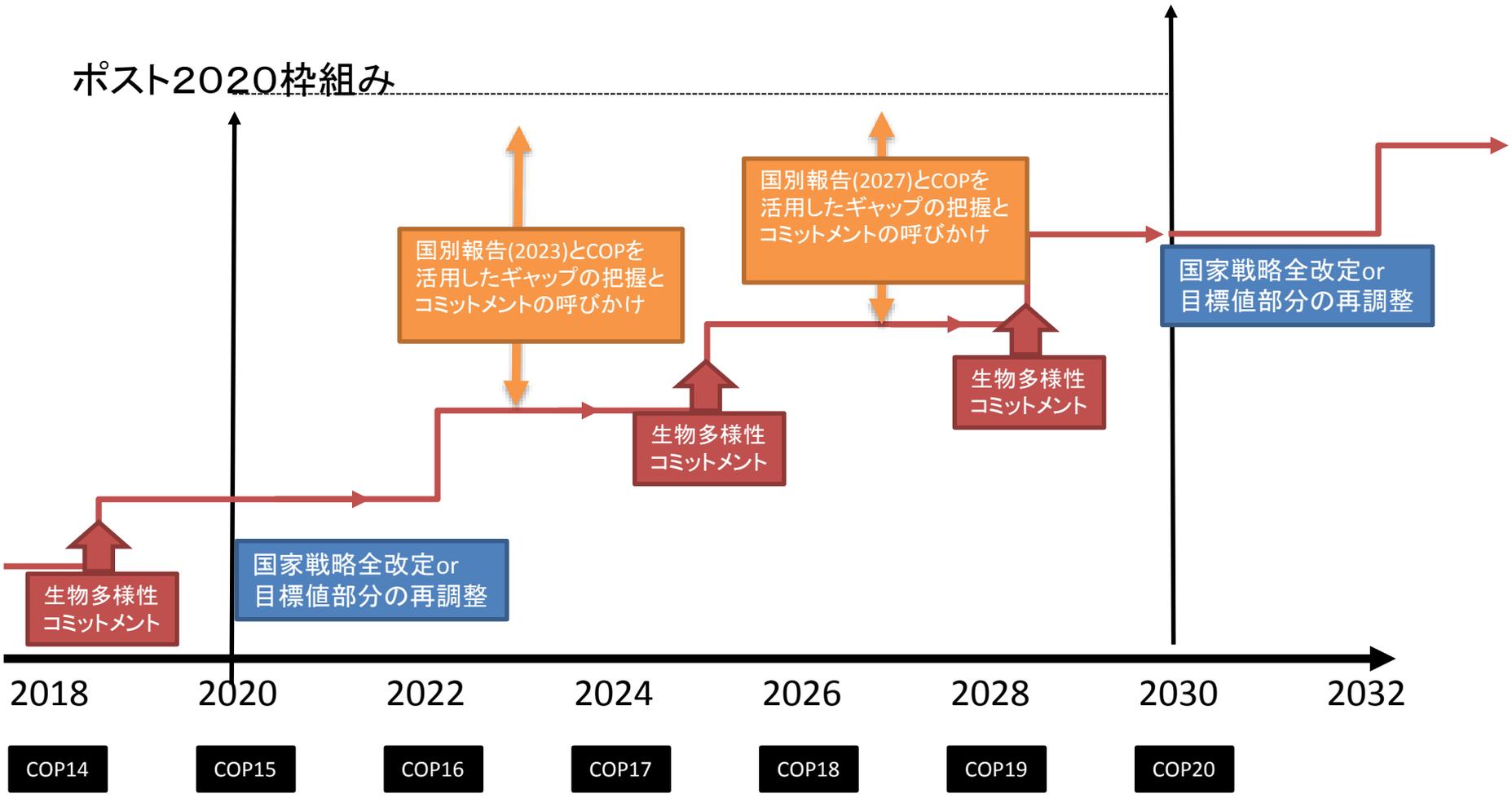
生物多様性コミットメント

- EUや欧州NGOの提案
- 愛知ターゲット。目標だけでは、達成できなかった。
- 実施のための仕組み・カバナンスの検討＋パリ協定の議論が組み合わさったのではないか。

国家戦略+コミットメント+国別報告書 (NBSAP+VC+NR) NGOのイメージ

人と自然の共生
に向けた第3
フェーズ
(2030-2040)

ポスト2020枠組み



生物多様性コミットメント メリット

1. 世界目標と国別目標の累積の間に発生するギャップを埋める仕組み、
2. ポスト愛知へのオーナーシップ(当事者意識)、ポジティブな雰囲気づくり、CBDコミュニティー外からの注目、
3. ポスト2020枠組みへの好影響
4. 生物多様性条約と気候変動枠組み条約を橋渡しする仕組み、

生物多様性コミットメント 課題/不明点

- 各国の貢献についてある程度方向性をつけないと、バラバラの提案がなされて累積を計算できないのではないか？
- どのように各国の貢献を呼び起こすか？、野心的な目標を惹起するか？
- 誰がどのように受け入れ(あるいは、内容のチェックをするのか)、約束の履行(実施)状況を誰がどうフォローアップするのか？
- 国家戦略の違いは何か？
- COPの検討の場とどういう関係性をもたせるのか？

サイドイベント等が出た ポスト2020のキーワード

- 「SDGs(持続可能な開発目標)との連携」
- 「生態文明(社会規律Social Normレベルの変化)」
- 「Bending Curve(生物多様性の劣化速度を回復へと上昇させる)」
- 「頂点にゴールを掲げ(Apex Goals)、Objectives>Actions>Enabling Conditionsの三層構造」

- 「プロセスのビジビリティ(視認性-多くの人の目に留まる)」「ハイレベルの参画」

- 「企業を含む、あらゆるアクターの参加を促す目標」
- 「コミュニケーションしやすさ」「態度変容につながるコミュニケーション」
- 「具体的で、実施可能な目標」「科学に基づく目標」
- 「ランドスケープレベルの目標」「生態系復元」
- 「ジェンダーの主流化」

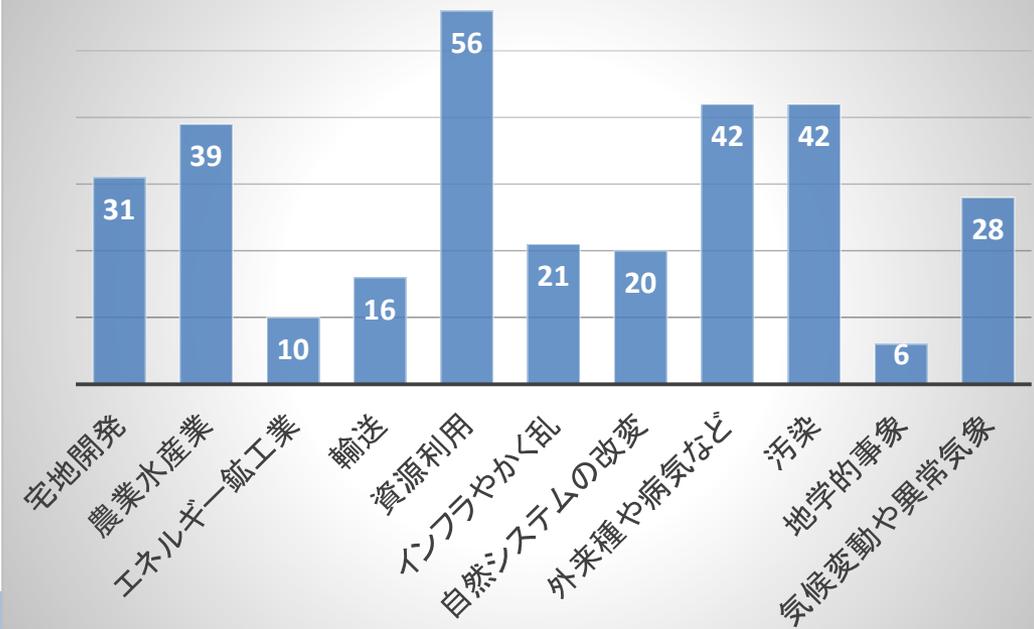
- 「統合的なアプローチ(KBAの保護地域化や保全による絶滅危惧種と保護地域を両方達成)」
- 「国(地域)毎に貢献領域を明らかにする(共通だが、差異ある責任)」
- 「種を特定した保全手法ではなく、種の危機要因に着目した絶滅危惧種保全手法」
- 「データの集約、リンクと活用」「社会科学の活用」



IUCN－自然保護カルテのようなものを作って、意味のある貢献を支援しよう

- 保護地域一国ごとに強化すべき領域を提案（面積/景観/連続性・重要性（KBA））
- 絶滅危惧種一種ごとの保全戦略から、種の危機要因の対策戦略の提案
- 外来種一種ごとの対策から、侵入経路ベースの侵入防止対策へ
- コミットメントを集まる仕組みとしての、世界自然保護会議2020（フランス）開催

* 日本に生息する絶滅危惧の鳥類66種の危機要因



The roadfree areas map (<http://www.roadfree.org/>)

話題提供のポイント

- ポスト2020 COP決定とIUCNの議論
- にじゅうまるプロジェクトとは
- ポスト2020への示唆





にじゅうまる
プロジェクト

守られてるから、
守りたい。

この星すべての生命。

にじゅうまるプロジェクトとは 愛知ターゲットを達成するために 考えた仕組み

愛知ターゲット (生物多様性条約戦略計画2011-2020)



原文(英語)をJCN-Jで簡略化しています。
詳しく知りたい方は、にじゅうまるプロジェクト
ウェブサイトへ <http://bd20.jp/>

私の愛知ターゲット(ポスト2020)の認識

- COP決定＝国レベルで同意した国際公約。
- 達成に向けては、国内の既存の政策との衝突(ABSや補助金など)が予想される。
- 中心的な役割を担う環境省の応援が重要。
- あらゆる社会が取り組まなければ達成不可能
- IUCN(-J)はそのために、社会に影響を与え、鼓舞し、支援するのが使命(IUCN Mission)

IUCN-Jによる愛知ターゲットの説明

- 地球規模、国家規模、地域規模で、
- 多様な主体（国連、国際機関、政府・自治体・企業・教育研究機関・NPO・ユース・市民・農家・林業家・漁師・・・）がそれぞれの立場で
- 生物多様性・自然の恵みを守り・向上させ、賢明に利用し、公正に利益を分かち合うための行動を
- **分かりやすく20に単純化し、2020年までの目標としてまとめあげた。**

愛知ターゲット実現のために： 「忘れさせないー実行する」

20は多い。＝取組み状況を見える化

ターゲット＝「目標達成のための行動」に翻訳

立場を超えた連携＝企業も、自治体も、NGOも、政府も取り組む（国民運動化）

世界目標＝世界レベルでの展開

学ぶ



宣言する



行動する



愛知ターゲット達成を
めざすメンバーに

全国各地

651 団体が

871 のアクション宣言

(様式第1号)

見本1 2012年 月 日

にじゅうまるプロジェクト事務局 宛
にじゅうまるプロジェクト宣言フォーム (宣言登録・ロゴ使用申請書)

団体名 **国際自然保護連合日本委員会**
代表者名 **会長 吉田正人**

「にじゅうまるプロジェクト参加活動規約およびロゴ使用規定」に則り、下記の通り参加登録およびロゴ使用の申請をします。

A. 団体情報

法人格	NPO法人		
団体名(正式)	国際自然保護連合日本委員会	(略称)	IUCN-J
団体種別* (選取肢の中から選択)	NPO/NGO(法人格を問わない)		
住所	〒 104-0033	東京都	都道府県
	中央区新川1-16-10 ミトコビル2F 公益財団法人日本自然保護協会内		
代表連絡先 Tel*	03-3553-4109	(Fax)	03-3553-0139
団体ウェブサイト*	http://www.iucn.jp/		

にじゅうまるプロジェクト担当者様 (団体代表者様と同じ場合、記入しないで構いません。)

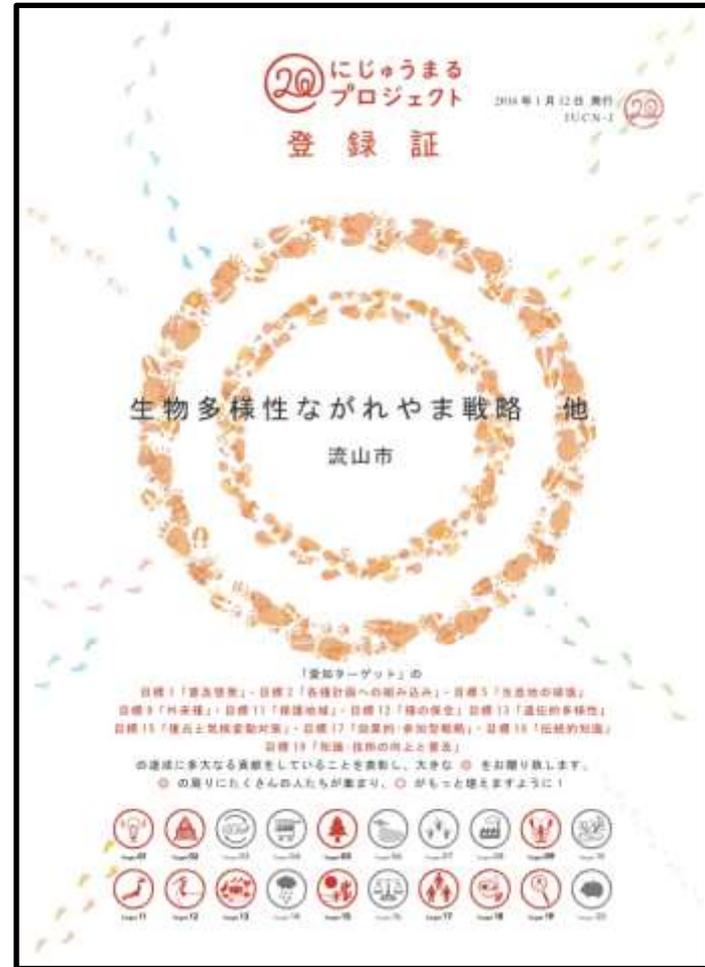
担当者氏名	道家哲平
担当者電話番号	(同上)
担当者メールアドレス	iucnj@nacsj.or.jp

参加活動規約への同意	<input checked="" type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ
ロゴ使用規定への同意	<input checked="" type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ

B. 宣言アクション情報

プロジェクト名・行動名* (最大30字程度)	にじゅうまるプロジェクト																																														
該当する愛知ターゲット* (下記一覧を参考に当該項目に○をお付け下さい) (複数回答可)	戦略目標A										戦略目標B																																				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																											
	戦略目標C					戦略目標D					戦略目標E																																				
プロジェクト・アクションの説明* (最大300字程度)	多くの多様な主体に愛知ターゲットの実現に向けて、活動・参加を呼び掛ける事業。参加団体の可視化や取り組みの可視化を通じて、愛知ターゲットをいろいろな行動に読み替えていくほか、そのためセミナーなどを行う。IUCNIに対して働きかけ、世界的にこの活動を展開することをめざす																																														
活動の範囲* (該当箇所の太枠内に○をつける)	<input checked="" type="radio"/> 海外		<input type="radio"/> 日本全国										<input type="radio"/> 都道府県					<input type="radio"/> 市町村																													
活動地域 (都道府県に○をつけた時のみ)	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
プロジェクトURL*	http://bd20.jp/																																														
活動の期限*	<input checked="" type="radio"/> 継続事業		<input type="radio"/> 期間限定事業										年 月 日まで																																		

※ 適宜、「宣言アクション情報」記入欄はコピーしてお使い下さい。
※ 項目の右上に*の印がついているものは、Webサイトに掲載・リンクさせていただきます。
※ 広報ツールに関しては、必要に応じて、本申請フォームと合わせて電子データを添付してください



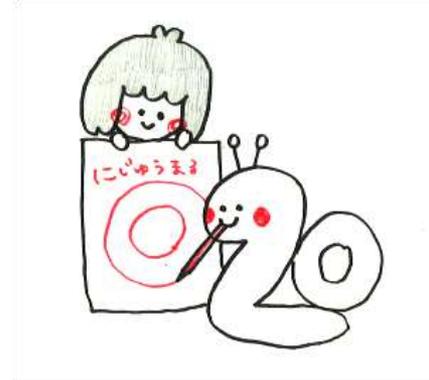
内容チェックはIUCN加盟団体の有志で行い
必要に応じて、アドバイスや情報提供

にじゅうまるプロジェクト

- 2020年に達成の○(まる)
- 20の個別目標全てで達成の○(まる)
- 世界を見据え、
- 現場で汗をかく人々こそ…

○(まる)じゃあ足りない

◎(にじゅうまる)!





キックオフイベント
2011年10月8日
28のにじゅうま
る宣言(18団体)

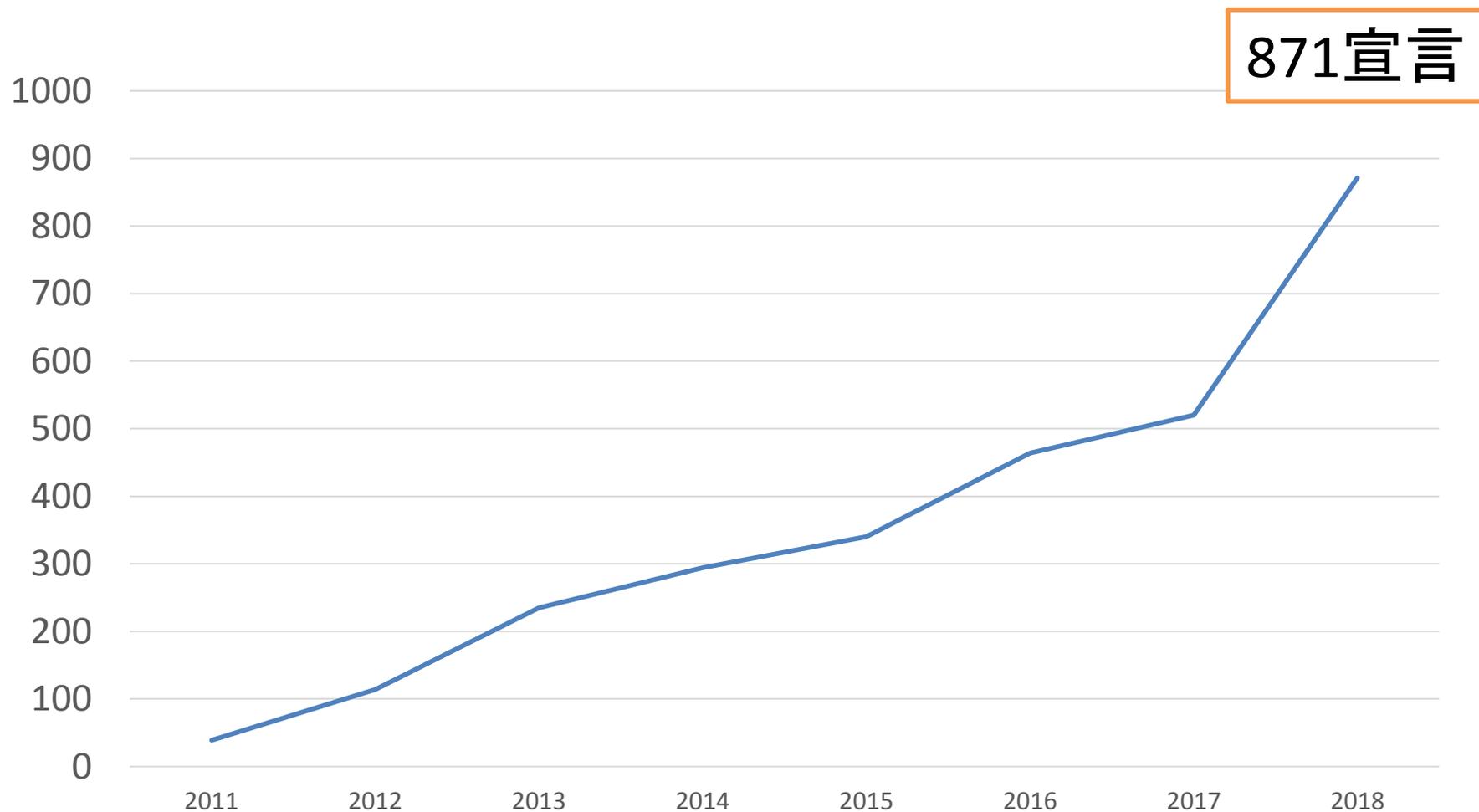


871宣言
(651団体)

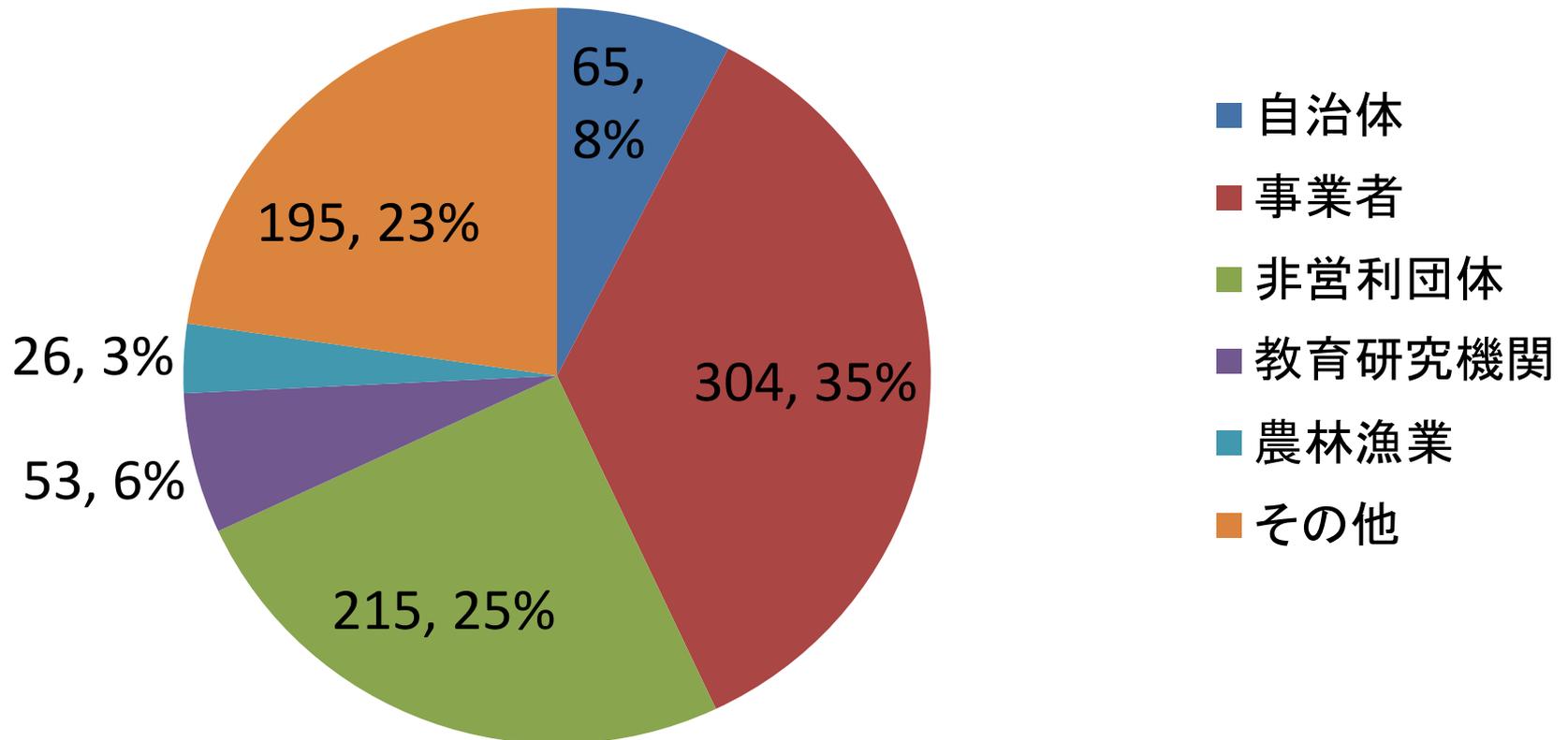


8年間のあゆみ

にじゅうまる宣言数の増加



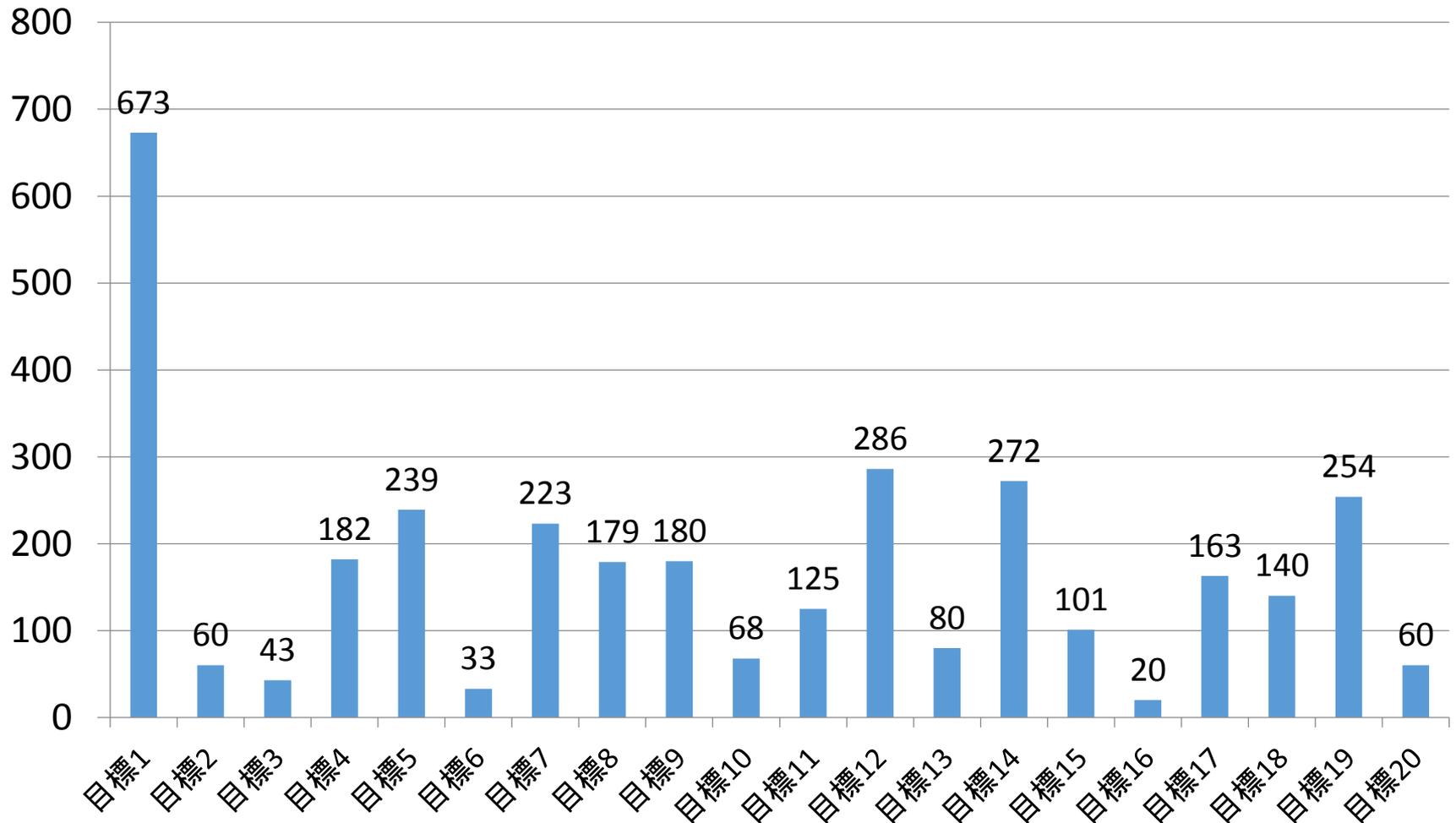
団体別のプロジェクト数の割合 (2019年1月時点)



事業数,割合(%)で表示

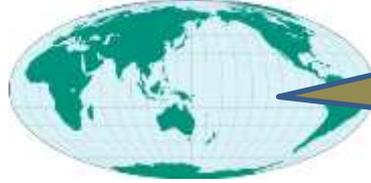
目標毎の宣言数

2011年度-2018年度(2019年1月まで)



地域別の宣言数 (2019.1.1)

海外の活動

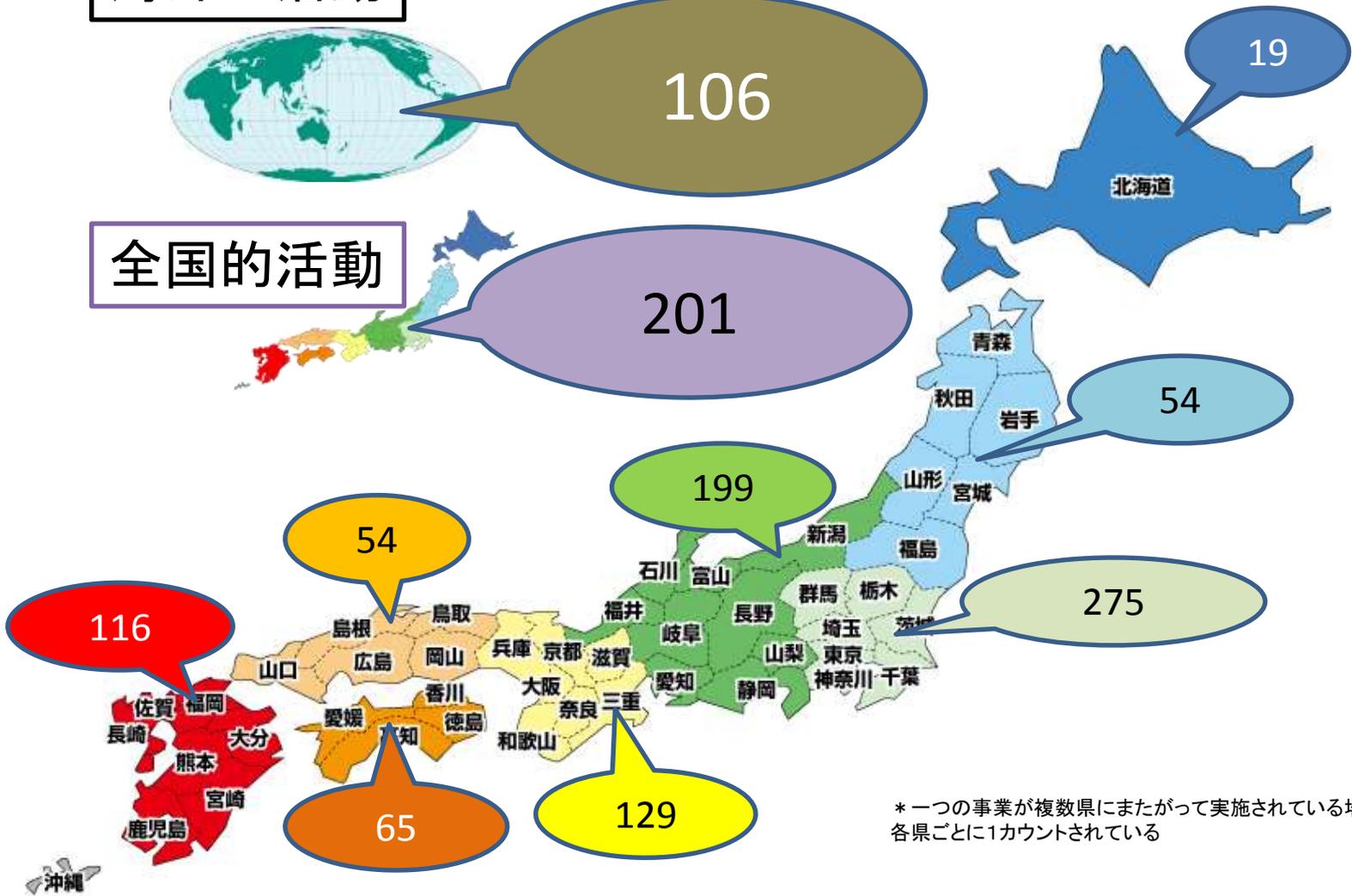


106

全国的活動



201



* 一つの事業が複数県にまたがって実施されている場合
各県ごとに1カウントされている

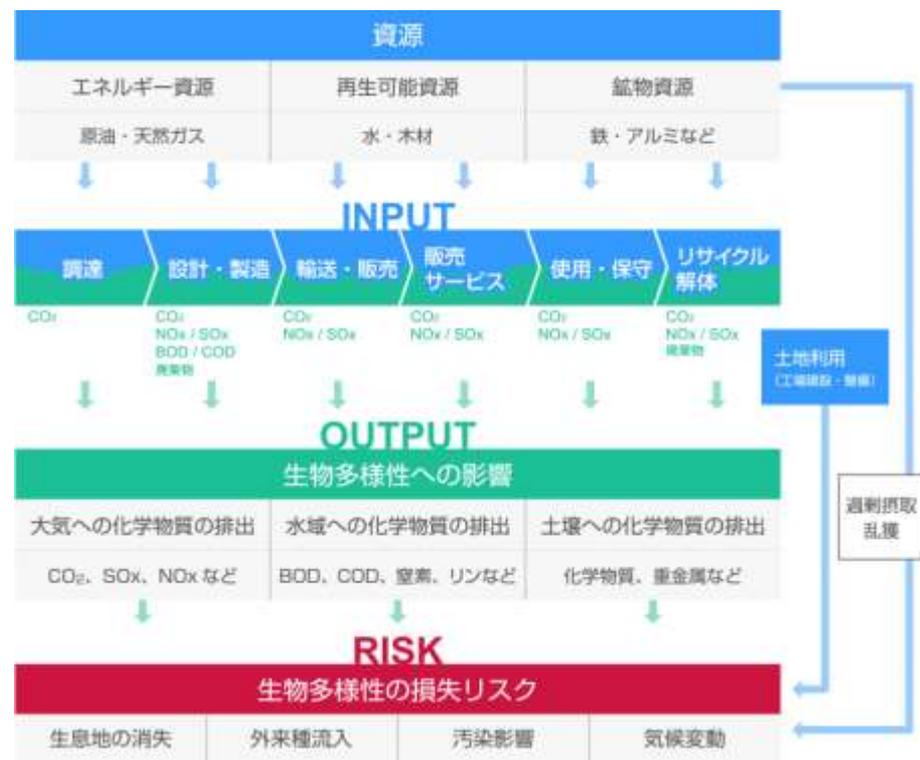
にじゅうまる宣言＝ネットワーク拡大の立役者

- 田んぼ10年プロジェクト
- 電機電子4団体生物多様性WG
- 愛知県・岡山市などの自治体
- UNDB-Jや表彰制度（生物多様性アクション大賞、生きものにぎわい企業活動コンテスト）
- テーマ・主体・地域レベルで、世界目標から活動に翻訳された。

ダイフク環境ビジョン2020

一株式会社ダイフク

- 環境影響の把握
- 資源・廃棄の管理
- 事業所での自然観察会（モニタリングサイト1000への参加）
- 各種研究会への参加（琵琶湖・トンボ100プロジェクト）



<http://www.daifuku.com/jp/sustainability/environment/biodiversity/>

未来につなぐふるさとプロジェクト ーキヤノンマーケティングジャパン

- トナー回収など消費者のコミットに応じた寄付金を基金化（純正トナーや用紙販売数を増加）
- 社員の環境活動ボランティアできるサイトの発掘
- 基金化し、お金で地域NGOを支援＋地域NGOの「伝える力」「ファンを増やす力」の向上を支援
- キヤノンの写真教室も活用（商品販促）



みんなで守ろう！ 日本の希少生物種と豊かな自然！ SAVE JAPAN プロジェクト

—損害保険ジャパン日本興亜株式会社

- Web約款の推進（紙や、郵送コスト削減）
- 浮いた費用の一部を寄付に！
- 寄付金を、全国各地のNGOの活動支援として活用
- 運営は、日本NPOセンターに委託（管理コスト小）
- 2011年から、725回、36,645名が参加
- <http://savejapan-pj.net/>



国連生物多様性の10年日本委員会の共通目標の一つに位置づけられました

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）ロードマップ

平成 28 年 10 月

国連生物多様性の10年日本委員会

はじめに

<UNDB-Jのこれまでの取

2011年から2020年ま

多様性の10年」生物多様性

IV. 目指すべき社会像に向けた具体的な取組

UNDB-J 構成団体は、II で確認・共有した目指すべき社会像に向けて、III で示した方向性に基づき、2020 年までに具体的に以下の取組を行っていく。なお、具体的な取組や目標は、今後随時、追加・更新していく。

(1) UNDB-J の取組

自然の恵みを意識したライフスタイルへの転換にあたっては、国民一人ひとりの意識の変革が必要。意識の変革を通じて、各構成団体の取組の実効性も上がる。そのためのツールとして、「MY 行動宣言 100 万人」、「にじゅうまるプロジェクト 2020 宣言」、「生物多様性の本箱 300 館展示」、「グリーンウェイブ」、「生物多様性の日普及一斉キャンペーン」といった取組を実施する。

また、各主体の取組を一層促進するため、各主体の取組の連携促進のための場を設ける。また、引き続き、認定連携事業や生物

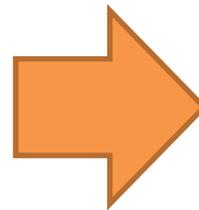
田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト



- ラムサールネットワーク日本：
水田目標を提案。
- 田んぼの生物多様性向上10年
行動計画の参加者はにじゅうま
るメンバーに
- **150を超す宣言**が登録

国連生物多様性の10年日本委員会との協働事業 認定連携事業

- 国連生物多様性の10年日本委員会: にじゅうまる宣言事業等から、連携事業を認定
- 112事業が認定



セミナーやワークショップの開催



- 生物多様性四国会議
(毎年度)
- 勉強会や国際会議出席後の報告会



国際連携：国連生物多様性の10年の日@COP14,2018

日中韓IUCN会員会合

- COP15(2020)、中国開催決定を受け
- 日本(COP10議長)、韓国(COP12議長)と、中国(COP15)の連携構築をスタート
- 2020年(COP15、IUCN世界自然保護会議2020)に向けた連携を確認。

話題提供のポイント

- **ポスト2020 COP決定とIUCNの議論**
- **にじゅうまるプロジェクトとは**
- **ポスト2020への示唆**



にじゅうまるの示唆 8年間、大変だけ必要な手法

- 変化を数字で見られる
- 運営の継続性を確保
- 国内外の愛知ターゲット実施に関する情報（世界動向・国内NW）のセンター
- 派生事業（田んぼ・UNDB-J認定連携事業・企業との連携）
- 企業や自治体の生物多様性活動推進に寄与
- ポスト愛知への引継ぎ

再掲：生物多様性コミットメント メリット

1. 世界目標と国別目標の累積の間に発生するギャップを埋める仕組み
2. ポスト愛知へのオーナーシップ（当事者意識）、ポジティブな雰囲気づくり、CBDコミュニティ外からの注目
3. ポスト2020枠組みへの好影響
4. 生物多様性条約と気候変動枠組み条約を橋渡しする仕組み

再掲：生物多様性コミットメント 課題/不明点

- 各国の貢献についてある程度方向性をつけないと、バラバラの提案がなされて累積を計算できないのではないか？
- どのように各国の貢献を呼び起こすか？
- 野心的な目標を惹起するか？
- ステップアップさせる手法があるのか？
- 誰がどのように受け入れ（あるいは、内容のチェックをするのか）、約束の履行（実施）状況を誰がどうフォローアップするのか？
- 国家戦略の違いは何か？
- COPの検討の場とどういう関係性をもたせるのか？